

# 松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター 〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉  
 E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>  
 松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」  
 〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

## チームワークについて！



2018年があと少しで終わろうとしています。1年の時の流れが本当に早いことを実感しています。学校・園では冬休みに向けた準備にお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

この時期になると耳にするのが、「今年の流行語」です。12月3日に、2018年のユーキャン新語・流行語大賞が発表され、2月の平昌オリンピックでカーリング女子日本代表チームの選手が交わした言葉「そだねー」が選ばれました。

日本初の銅メダルに輝いた日本代表チームですが、技術や体力はもちろん、そのチームワークの良さを取り上げられることが多かったと思います。同じカーリングで、バンクーバーオリンピックで金メダルを獲得したスウェーデンのアネッテ ノルベリ選手は、「カーリングはチームワークが非常に重要です。うまい選手を上から4人そろえれば勝てるものではないのです。」と言っています。カーリング女子日本代表チームから、コミュニケーションを軸としたチームワークの大切さを感じます。試合の場は、自分たちで状況を読んで、どのように対応するかを考えるわけですから、それぞれの考えを伝えられる場でなければなりません。「そだねー」と相手の考えを受け入れるところに、自分の考えを伝えようという気持ちが生まれると思います。また、その逆も言えると思います。様々な状況の中で、話しやすい雰囲気や場をつくるのが大切で、自発的に自分の考えを言える関係性を築いていくことの大切さを感じます。

また、日本代表チームのキャプテンは、試合に出場しないリザーブという立場でありながら、試合が終わった後の午後11時過ぎからの公式練習で、一人で黙々と翌日試合で使う石の滑り具合をチェックしていました。リンクのデータを取り、チームの選手と共有しようとしていたそうです。チームに献身的で自分の仕事に責任をもって果たす姿勢は素晴らしいと思います。

日本代表チームのチームワークは、私たちの職場を考える上でも参考になるのではないのでしょうか。コミュニケーションを軸としたチームワークのある職場を作っていけたらと感じています。  
 (野田 幸範)

## 研修講座報告その4 ～研修講座の様子をご紹介します！～

### B-7 外国人児童生徒教育

「外国人児童生徒の指導の方法と留意点」

講師 臼井 智美 先生

日本語指導が必要な児童生徒が授業内容を理解できるように、授業を組み立てるうえで、教科の目標だけでなく「日本語の目標を設定する」ことが大切である、と教えていただきました。例えば、算数・数学でよく出てくる「工夫して計算しよう」の『工夫』などの言葉の意味、問題の意味を日本語が苦手な児童生徒が理解できるような手立てを考えていく等、各教科での具体的事例をたくさん紹介していただきました。

### A-3 体育／保健体育

「器械運動が苦手な先生こそ受講してほしい『器械運動講座』」

実技指導を交えながら、体づくり運動やマット運動等のポイントを具体的に大変分かりやすく教えていただきました。「体育は苦手」と感じている先生方も楽しみながら運動に取り組む様子がたくさん見られました。



講師 松本格之祐 先生

### B-9 人権教育Ⅱ

「多文化共生の学校づくり

～ハイトスピーチ対策法を具体化するために～」

法律について大変分かりやすく、また人権学習指導資料「みんなのひろば」を活用したグループワークを通して、「やさしい日本語」の使用等、多文化共生のための具体的な実践方法について学ばせていただきました。



講師 御堂 栄治 先生

### B-16 特別支援教育Ⅱ

「発達性ディスレクシア（読み書き障害）の理解と具体的指導  
—根拠のある評価と学習支援の評価—」

講座では、読みの障害、書き表現の障害、算数障害について、具体例を交えながらとても分かりやすくご教授いただきました。今後の実践において、児童生徒理解・実態把握の面でたくさんのヒントを与えていただきました。



講師 松浦 直己 先生

### B-17 乳幼児教育Ⅰ

「子どもたち一人ひとりを理解するために

～関わりの難しい子ってどんな子どもたち？～」

関わりが難しいと言われる子どもたちについて、発達障害や母子関係、対人関係の面からなど、これまで関わってこられた子どもたちを例に、さまざまな角度からとても分かりやすく教えていただきました。



講師 阿久澤 栄 先生

### B-19 乳幼児教育Ⅲ

「領域『表現』における保育実践を考える

～幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂を受けて～」

新聞紙を使ってグループで「新聞紙ショートストーリー」を考え、楽しく表現活動を体験することができました。後半は、グループでのディスカッションを通して、受講者がたくさんの気づきを得ることができました。



講師 福西 朋子 先生